四季 ―志木自然報告―
Shiki Seasonal Nature Reports 2018

Cover Story

巻頭言…
新年度のご挨拶と本校の取り扱い説明書

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。心から歓迎します。
新２・３年生の諸君、実り多き一年であることを祈ります。

新入生の皆さんが今まで籍を置いていた中学校は、義務教育であることもあり、多くのものがきちんと準備されていました。ですが、高校は求める者にしか開かれません。自分から動かないことには何も始まらないのです。それがまず高校の「取説」です。

中学校生活は楽しかったですか？そうではなかった人は、本当に「中学校が」楽しくなかったのでしょうか？「あなた自身がつまらない（≒楽しめない）人だった」可能性はありませんか？周辺世界を認識するのはその人の『脳』です。周りのさまざまな事柄に気づいて楽しめるかどうかは、その人自身が「楽しい（＝楽しめる）人」であることが大前提なのです。『世界を楽しめる脳』を持つ人は、校内に目を向けた時にも見方が異なります。道端の雑草に目がいかない人と、道端に咲いている小さな白い花に気づき、それが「ハコベ」という野草であることを知っている…、さらにハコベが「春の七草」の一つであり、一月七日に「七草粥」として食す習慣が日本にある事を知っている人とでは見えている世界の厚さがどれだけ違うのでしょう…。
見えている世界の厚みは皆さん一人一人のこれからの取り組み次第です。高校はそのためにそれほど御節介は焼きませんが、求めてくる生徒には門戸をいつでも開放します。なお、学校内外の自然の見方について視点を増やす ささやかな手助けをするのが本誌なのです。
３年後に分厚い世界に囲まれていることを心より祈ります

Appendix1【フデリンドウ】

理科棟から部室棟に向かって下りてゆく坂道の途中、左手の林縁に例年この時期になると「フデリンドウ」という名の花が咲く。今年は当たり年で、歩道のすぐ脇に鮮やかな青い花を数十輪咲かせている。惜しむらくは、本紙が手元に届くころは既に花の盛りが過ぎている事である。『筆竜胆』と漢字をあてる通り、閉じた状態が筆の穂先に似る。「林縁」という帯状の狭い環境を好む（強い日射の当たる空地、日のほとんど当たらない林床で見かけることはほとんどない）。日が当たると鮮やかな青色の花びらが開く。自ら気がついてこの花を見た人は幸運である。

Appendix2【ハナミズキ】

2004 年（諸君らが生まれる前後であることに、書いていて少し驚いている）に一青窈（ひととよう）という名の女性歌手が唄った歌のタイトルにもなっている春の花である（因みに一青窈は SFC 出身）。部室棟前、図書館の庭球場側にある樹は白い花を、柔剣道場前の樹は淡いピンク色の花を咲かせる。実は花びらに見えるのは『総苞』と呼ばれる花を包む「葉」である。いわゆる花びらはほとんどないのである。発生学的には花びらは「葉」である。生物選択者は良く知っているはずだが、葉を「花弁（花びら）」「めしべ」「おしべ」のどれに変えるかは、たった３種のホメオティック遺伝子の組み合わせで決まる。

(Miyahashi)

z/c 353-0004 埼玉県志木市本町4-14-1[tel: 048-471-1361]
慶應義塾志木高等学校
2018 年　春 号（No. 064）
2018 年　4 月 13 日発行

志木高構内の気温・降水量変化（2017年8月～2018年3月）　*Meteorology*

1999年度より校内で10分ごとの気象観測を行っています(自動気象観測)。2017年8月より観測機器を18年ぶりにリニューアルしました。（詳細は2017年9月の記事にあります。）

観測項目は、気温のほか気圧、風向・風速、降水量(雪は融けた水量)、湿度、太陽放射量、紫外線インデックス等で、これまでと変わりありません。観測は数秒ごとに更新されます。その数秒ごとのデータを、専用のソフトを使ってパソコンの画面に表示するようにしました。このリアルタイムのデータは理科棟2階の地学準備室前の廊下のガラス窓内のパソコンで見ることができます。ぜひ一度見て感想を聞かせてください。

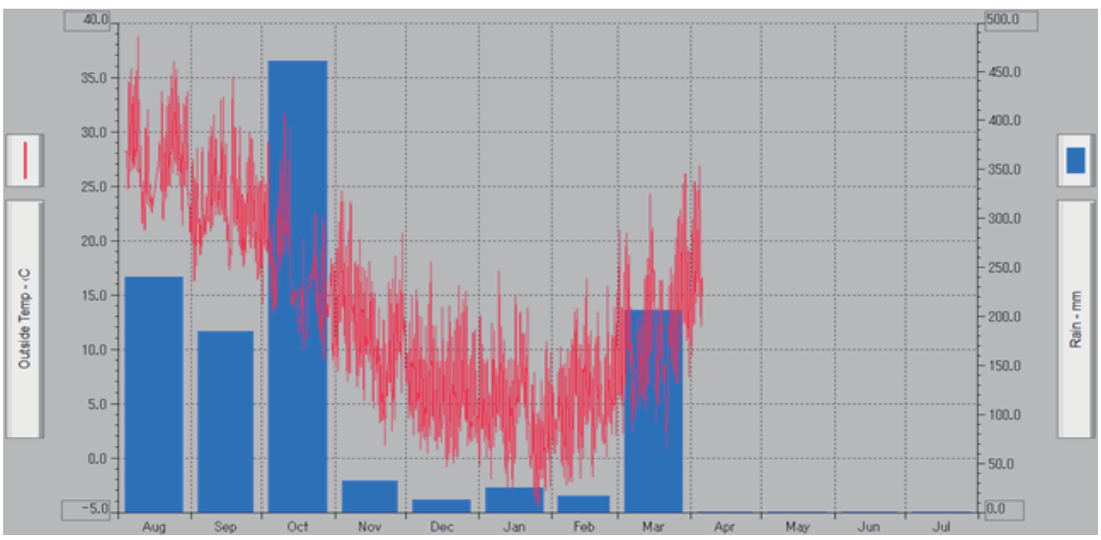


図　志木高構内の気温・降水量変化（2017年8月～2018年3月）

(Higuchi)

足跡をさがしてみよう　*Zoology*

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

志木校内には様々な生物が生息していますが、けっこう大型の動物もいるんですよ。最近では、生物室わきのビオトープに、タヌキが３匹やってきます。ただ、彼らが姿を現すのは諸君が帰ったあと、深夜です。なので、去来舎に宿泊でもしない限り、なかなかお目にかかることはできないのですが、足跡を残すことがあります。それを見ることで存在は確認することが出来ます。以下に、環境省作成の足跡図鑑から校内で目撃される動物をピックアップして載せましたので、ぜひ探してみてください。

【アライグマとその類似種の足跡】

アライグマ	タヌキ	ハクビシン	ネコ
前足　長さ5.5cm、幅６cm 後足　長さ6.5-８cm、幅５-6.5cm ➢　５本の指が長く目立つ	前足・後足とも 長さ４cm、幅３cm ➢ 指と肉球の間が狭く、梅花に似る	前足　長さ５cm、幅4.5cm 後足　長さ10cm、幅４cm ➢　踵まで地面に付く	前足・後足とも 長さ3.5cm、幅3.5cm ➢　爪の跡は付かない

(Izawa)

アリスと雛菊

Alice

『鏡の国のアリス』の第２章でアリスはおしゃべりをする花たちと出会います。小説の中のスミレに関する記述をよく読むと、著者ルイス・キャロルの植物への洞察力の鋭さが伺えるかもしれないということを以前紹介しました。今回は雛菊（ディジー）の描写にも実際の花の生態が反映されている可能性があることをお伝えしたいと思います。

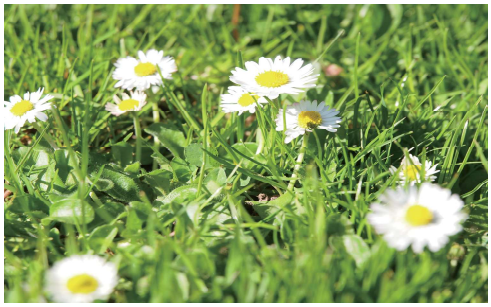
‘It says “Bough-wough!”’ cried a Daisy: ‘that’s why its branches are called boughs!’
‘Didn’t you know that?’ cried another Daisy, and here [1]they all began shouting together, till the air seemed quite full of little shrill voices. ‘Silence, every one of you!’ cried the Tiger-lily, waving itself passionately from side to side, and trembling with excitement. ‘They know I can’t get at them!’ it panted, bending its quivering head towards Alice, ‘or they wouldn’t dare to do it!’
‘Never mind!’ Alice said in a soothing tone, and stooping down to the daisies, who were just beginning again, she whispered, [2]‘If you don’t hold your tongues, I’ll pick you!’ There was silence in a moment, and several of the pink daisies turned white.
‘That’s right!’ said the Tiger-lily. ‘The daisies are worst of all. [3]When one speaks, they all begin together, and it’s enough to make one wither to hear the way they go on!’

アリスが他の花たちと話をしていると、一人（一輪？）のデイジーが口をはさんできます。すると別のデイジーも加わり、やがては他のデイジーたちも口をそろえて叫びだす様子が描かれています（**下線部[1]**）。引用した個所の最後の部分でも、デイジーには一人がしゃべり出すと皆が追随する性質があることをオニユリが批判しています（**下線部[3]**）。この部分では雛菊の花が群生するという特性が生かされていると考えることができます。実際にイギリスでは辺り一面に雛菊の花が咲いているような場所が珍しくはありません。

またOxford English Dictionaryによると、雛菊（daisy）は語源的にはday’s eye（日中の目）から変化したものだと考えられています。これは雛菊の花の形が目の形に似ているところと、その花が太陽が沈む頃には花びらを閉じ、日が昇ると再び開くという性質を持つことに由来するようです。花びらの開閉を毎日繰り返し、しかも群生することによりたくさんの花が一斉にその動作を行うことから、一人がしゃべると皆がしゃべり出すという描写が生まれたのではないかと推測されます。

さらにデイジーたちを黙らせるためにアリスの言ったセリフにも興味深いものがあります。アリスは「おしゃべりをやめないと、引っこ抜くわよ」とデイジーを脅して静かにさせることに成功します（**下線部[2]**）。雛菊の花を摘んで花輪（a daisy-chain）をつくるのは、イギリスの子供たちの遊びとしては一般的なものでした。『不思議の国のアリス』の冒頭部分にも、川辺で退屈しているアリスが「雛菊で花輪でもつくろうか、でも花を摘むのは面倒だし・・・」と考えるシーンがあります。実在した少女アリス・リデルもa daisy-chainをつくる遊びが好きだったのかもしれません。こうしてみると、物語の中でアリスがデイジーに「引っこ抜く」と脅すことが一段と効果的なものに思われます。またこの部分を翻訳する際には「摘んじゃうわよ」とか「花輪になりたいの？」なんてすると、却って凄味が増すかもしれません。

以上作品中のデイジーに実際の雛菊の性質が巧みに織り込まれているかもしれないこと、さらに子供たちの遊びという文化的背景も反映されているかもしれないことについて探ってみました。イギリスではこれから雛菊の咲き誇る季節がやってきますが、残念ながら志木高で野生の雛菊を見つけることは難しいようです。この辺りの夏の暑さが雛菊には厳しすぎるのかもしれません。イギリスの夏は涼しくて、じめじめしていなくて快適です。雛菊だけでなく人間にも過ごしやすい気がします。



今回は約1年半のイギリス留学からご帰国された英語科の田中先生にご寄稿いただきました。

(Tanaka)

志木の自然[睦月(1月)如月(2月)弥生(3月)卯月(4月)]

Botany

学校の南面に位置する畑地のわきには毎春、土筆（つくし）が姿をあらわす。ツクシはトクサと呼ばれる植物の仲間だが、その祖先の1種である*Calamites*は古生代石炭紀には地球上に登場している。当時の高い酸素濃度を背景に、高さが10mを超える巨木だったと考えられている。ツクシを調べている生徒からよく「野草図鑑に載っていない」と相談を受ける。ツクシはシダ植物。種子植物の野草図鑑には当然載っていない。日本では昔から佃煮などにして食されることもある春の野草である。

[2018年1月～2018年4月までの開花情報]

Grass

14. Feb.2018 ヒメオドリコソウ, タネツケバナ

22. Feb.2018 ホトケノザ

2. Mar.2018 チチコグサ, オオアラセイトウ, グンバイナズナ

11. Mar.2018 ウシハコベ, ヤエムグラ, ハナニラ, カタバミ, オランダガラシ

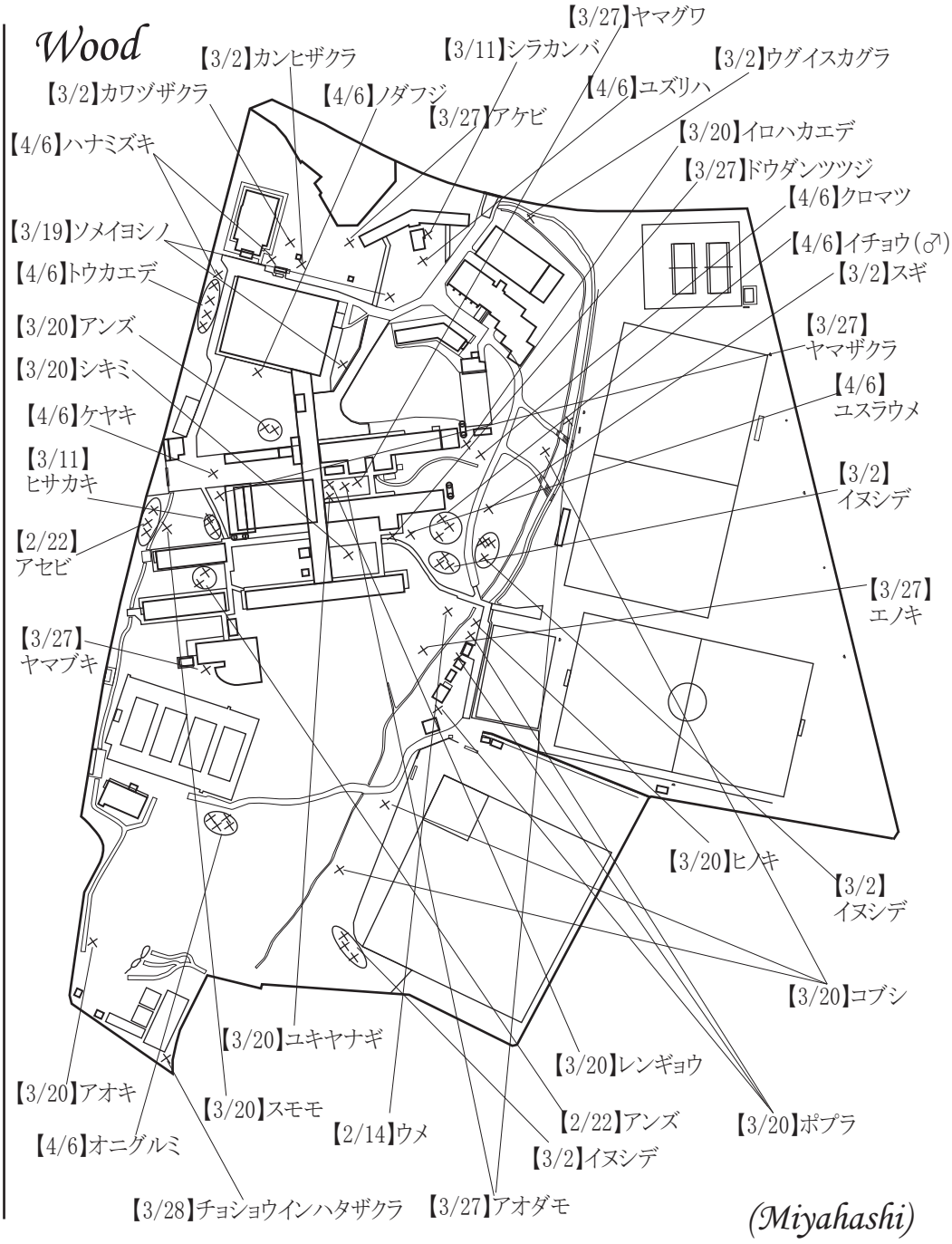
20. Mar.2018 タチツボスミレ, カントウタンポポ, ヘビイチゴ, スギナ(ツクシ)

27. Mar.2018 マルバスミレ, ムラサキケマン, ニヨイスミレ, オッタチカタバミ, トキワハゼ, キュウリグサ, カタクリ, オオジシバリ, カラスノエンドウ, スミレ, イヌムギ

6. Apr.2018 ヤブジラミ, キュウリグサ, カラシナ, フデリンドウ, ハルジオン, キランソウ, ヒトリシズカ, カキドオシ, ヤブニンジン

フデリンドウ
リンドウ科　リンドウ属

Wood



(Miyahashi)

この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。
名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

執筆・担当区分	動物・環境	井澤　智浩 *(Izawa)*
	天文・気象	樋口　　聡 *(Higuchi)*
	Alice	田中　　健 *(Tanaka)*
	植物・地質　他[&発行責任]	宮橋　裕司 *(Miyahashi)*
	編集・植物画	荒巻　知子 *(Aramaki)*